

# 思いやり

第 20 号

発行者

名農高生徒指導部  
平成31年 2月 26日 (火)

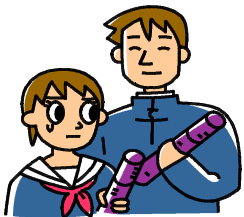


## 大人として!!



3年生諸君「何はともあれ卒業おめでとう」ということばを言える時が来ました。卒業ということばを辞書（新選国語辞典：小学館）で引いて見たところ「学生・生徒がその学校の教育課程を全部おえること。」とありました。3年生諸君は、このことを実感しているでしょうか？長かった3年間だなあ。と知っている人もいると思うし、逆にこの3年間は短かく感じた。と思う人もいます。しかし、いずれにしても3年生諸君は、ここ名久井農業高校での教育課程を全部終えたことになります。いよいよ実社会へ向けて、本当の「人生のスタート」を切ることになりました。それは大人として扱われることになることを意味します。

大人とは『一人前の人間として、思慮分別（しりょぶんべつ）があり、社会的な責任を負えること。また、その人』とある辞典にありました。思慮分別とは、慎重に物事を考え判断することです。それは「社会的な責任を負う」ということにつながります。いままで重大なことはいつも親の判断に任せてきたと思います。これからは自分自身で様々なことを体験し、判断・行動して行くことになります。競争相手は、様々な考えを持った人たちと生活していかなければなりません。自分の尺度（自分の判断基準、ものさし）で、いい判断ができる時もあれば、そうでない時もあります。でも基本的な判断（善悪の判断）は、みんなが培ってきた基準と何ら変わりありません。自分の意見や相手の意見を取り入れ、柔軟な発想を持ち、自分自身をより成長させて立派な社会人（大人）になってほしいと思います。



## 思い出に残る卒業式に!!

いよいよ卒業式が迫ってきました。卒業式に備えて3年生は式歌の練習や服装・容儀指導が行われていますね。また卒業式は、これまで育ててくれた保護者に対して、感謝の気持ちを態度にあらわす時でもあります。誰もが自分の息子・娘たちの『凜（リン：りりしい姿）』とした状態での立派な卒業式を期待しているのです。そして、「校歌は」全校生徒の大きな声で体育館に響き渡らせたいと思います。3年生は母校で歌う最後の校歌を。1・2年生は、3年生を気持ちよく送るために声高らかに校歌を歌ってほしいと思います。卒業式までは、何回か式歌の練習を行いますが、校歌の歌詞をしっかりと覚えておいてください。

そして「式」というのももちろん、服装・容儀も「式」に見合う服装・容儀の状態ではなければなりません。服装・容儀で、注意されることの無いよう各自が気をつけてください。「ダメなものはダメなのです」「当たり前前を当たり前」にしてください。

式当日は、保護者の方々や来賓の方々が入校します。まず見るところは君たちなのです。身なりはきちんとしているだろうか。返事はちゃんとできるだろうか。式歌は大きな声で歌えるのだろうか。等々君たち生徒に期待していることばかりです。それが1・2年生の次（進路）にまで影響してくるのです。だから1・2年生は次の自分たちのために。3年生は自分を応援してくれた人々への感謝のために立派な思い出に残る卒業式を演出してほしいと思います。



### ◆生徒の本分◆

学校を休まない・勉強する・きまりを守る

